

U2 や Lady Gaga、Taylor Swift の Live Show を制作するアーミッシュの街

アーミッシュの街の奥にある Tait Towers は、世界最大の音楽パフォーマンスのライブセットをデザインしている。その目的とは？ロックスターのビジョンを世に送り出すためである。

By STEPHEN ARMSTRONG

2018 年 1 月 5 日



Tait Towers の創業者、Michael Tait, 2017 年 WIRED 撮影

2016 年 12 月、デザイナーの Ric Lipson は Bono、The Edge、Adam Clayton、Larry Mullen Jr.との電話会議でニューヨークにいた。彼はロンドンのデザイン会社 Stufish のシニア・アソシエイトで、U2 のセットデザイナー、Willie Williams と共に、1992 年の Zoo TV からバンドのツアーを全て手掛けている。2016 年 10 月、U2 は、カリフォルニア州 Daly City の旧ジュネーブ・ドライブイン・シアターにおけるソフトウェア大手 Salesforce の年次カンファレンスでパフォーマンスを行った。ジュネーブへの敬意を払い、ステージには映画のスクリーンなどがあった。

そして現在、U2 は 2017 年の Joshua Tree アニバーサリーツアーにむけて何かそれと似たようなものを望んでいた。4 人のメンバーが Stufish と Williams のデザインを元にアイデアを付け足していく。その時、Bono がマジックをつかんで、スクリーンのトップから Joshua Tree が飛び出す、というざっくりとしたイメージを描いた。この Treeこそ舞台にあるべきだ、と Bono は Lipson に言った。

ロックスターがステージのコンセプトを語る時というのは、Lipson や Williams のようなデザイナーにとっては難しい瞬間である。show のデザイン、建設、組み合わせ、マーケティング、販売には何千人もの人手が必要であり、スタジアムツアーを行うまでにはコンセプトから show に至るまで数千万のコストがかかる。語られる願望に技術がついてこないことも多い。

今回、初めのセットデザインはシンプルに見えた。銀色に描かれた Joshua tree のシルエットが、幅 61 メートル、高さ 14 メートルもある黄金の 8K LED ビデオスクリーンに映し出される。Show 中盤には、フォトグラファーと Anton Corbijn 監督によって撮影された高解像度の壮大なアメリカの風景が現れる。木の形をしたキャットウォークやサテライトのステージが客席の中まで伸び、ライトやスピーカーを舞台の上にぶら下げたスチール・トラスがある。

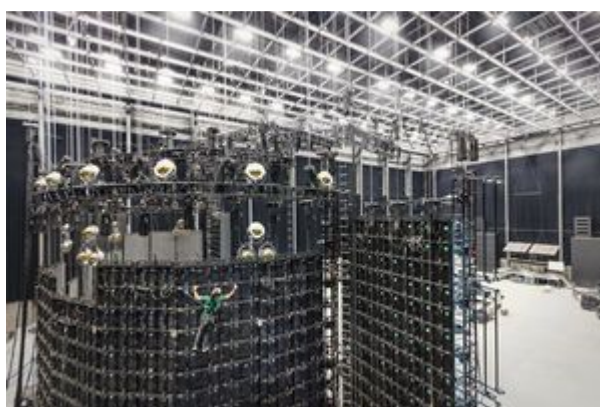


U2 の 30 周年記念ライブ、The Joshua Tree ツアーにおける『最高の瞬間』。
2017 年 5 月、バンクーバーの BC Place スタジアムにて撮影

しかしながら、このコンセプトを実現するには、世界初のプロトタイプ機器が少なくとも 3 つ必要であった。CCTV システムを使って、メンバーを追跡するビデオ制御のフォロースポットライト。最先端のカーボンファイバービデオスクリーン(初めてコンサートツアーで使用された最大解像度と最高解像度、わずか 8.5mm のピクセルしか空いていない)。オーディオのスペシャリストである Clair Brothers が提供したプロトタイプのスピーカー。これはとてもパワフルで、最大規模のスタジアムでさえサウンドを溢れさせるのに必要な数は 16 本のみだという。さらに、あらゆる技術や安全基準が含まれていることで、舞台のセッティングからバラシまで 3 日間かかるため、世界各地を回るスチールサポートが同時に 2 組必要になった。例えばバンドがロンドンの舞台に立っている間、ベルリンでステージが建設中になる、など。

Lipton は語る。「あの時点では、5 月のツアー開始に間に合うようにするためにどういった技術を使えばいいのか見当もつかなかったのです。しかしロックスターは問題が起きたなんてことを耳に入れたがりません。「不可能です」ではなく、「はい、もちろん大丈夫です」と伝えるのが私たちの仕事です。」

Bono の Tree をスケッチからスタジアムツアーに現実化させるため、Stufish とバンドメンバーは、ペンシルバニア州の田舎町、Lititz に潜り込んだ。Lititz は、ロックの技術と工学、そしてアーミッシュからのいくばくかの協力を得て融合させた、そして過去最高収益を上げたツアーベスト 10 のセット全てを構築した、建築工学・ソフトウェア会社の Tait Towers の本拠地である。



1968 年、オーストラリア人の若きバックパッカー、Michael Tait は、ロンドンのオックスフォード・ストリートから少し離れた音楽業界の深夜拠点である The Speakeasy Club(悪名高い双子の Kray 兄弟の友人が運営)でバーテンとして働いていた。音楽で食べていきたいなら、ここに乗り込むのが(ベストは演奏するのが)一番。Speakeasy は 1978 年に閉鎖されるまで、スターダムへのし上がるための最短ルートであった。The Beatles、David Bowie、Bob Marley、Pink Floyd、The Rolling Stones、Elton John、Jimi Hendrix は皆、その薄汚れたステージに立ったという。

ある日、初心者の新人プログレロックバンド、Yes のマネージャーは、Leeds でのライブにメンバーらを連れて行くために、運転手を募集していた。その時に手を挙げたのが Tait だったのだが、バンドの機器や照明の粗雑さに驚いたという。ギタリストの Peter Banks はエフェクト・ペダルを踏み続け、ほとんど毎回それを壊していた。「私ならその状況を改善させてあげられることに気づいた」と Tait は言う。彼はその後 15 年間、Yes のツアーマネージャー、サウンドエンジニア、照明デザイナーとなった。

幼いころから電子回路キットや電池、電球が好きだった Tait は、ツアー中に wah-wah ペダルや fuzzbox を踏みつけから守るエッジボード、そしてロックで最初の回転ステージを作り、初代自蔵式照明タワーのひとつを考案した。他のアーティストも彼のアイデアを支持し、すぐに、彼は Barry Manilow や Neil Diamond と一緒に仕事をするようになった。

「気付くより先に、私はすでにこのビジネスの渦中にいたのです。」と Tait は説明する。1978 年、彼は業界では有名な照明タワーの名をそのまま会社名にして Tait Towers を設立し、緊密な協力関係にある Clair Brothers 社の近くである Lititz に本社を置いた。

Clair 兄弟、Roy と Gene が最初のスピーカーを作製したのは、1966 年。Lititz からほど近い Lancaster にある Franklin & Marshall College で Frankie Valli と Four Seasons が演奏したときであった。Valli が連れて行ったバンドは Roy と Gene の PA に大層、感銘を受けたという。1970 年に、兄弟は最初のステージモニターを、その 2 年後にはインドア・アリーナ用の最初のハンギング・サウンドシステムを設計・構築した。1978 年までには、ツアーに出るあらゆるバンドが兄弟のもとにまず立ち寄るようになった。兄弟が Lititz を離れる理由はなく、Tait もまた近くに設立された。

80 年代、Tait は Bruce Springsteen や U2 のセットだけでなく、Michael Jackson がムーンウォークをしたステージをも作った。同社は 1994 年に過去最高の売り上げを記録した The Rolling Stones の Voodoo Lounge ツアーのステージ、そして 1998 年には Janet Jackson の Velvet Rope ツアーのビデオスクリーンを制作した。「それでも、それは趣味のようでした」と、誰もが "Winky" として知っている緩やかなポニーテールの、体格よく優しい Tait の社長/CEO、James Fairorth は語った。「Michael Tait が Willy Wonka (『チャーリーとチョコレート工場』に出てくる工場長)、そして私たちは皆、誰もやらない唯一無二のステージセットを作り上げる夢の工場に働いていたのです。」

その後、1999 年にファイル共有サイト Napster が立ち上げられ、Tait の世界は一晩で一変した。

Princeton の経済学者であり、2005 年の論文 Rockonomics: The Economics of Popular Music の共著者である Alan Krueger は、自身が「Bowie 理論」と呼ぶものを使って Napster 後の音楽産業を説明する。1980 年代から 90 年代にかけて、ほとんどのアーティストが最新アルバムのプロモーション・ビジュアルとしてツアーを使い、販売からほとんどの利益を得た。U2 は Joshua Tree をそのリリースの年に 1400 万枚販売し、米国では 3,700 万ドル(約 2800 万ポンド)を売上げた。Joshua Tree の 111 日間に渡るオリジナルツアーは、ほぼ同じ総利益で 4,000 万ドルであった。

CD 収益とライブ収益の繋がりは断ち切れ、Napster 後の傾向を David Bowie は見抜いていた。2002 年、彼は New York Times に「音楽自体は、水や電気のように流れるようになるだろう。アーティストは多くのツアーを行う準備をする必要がある。それが本当に唯一、音楽に残された特別な場所なのだから」と語っている。

Crispin Hunt も同意する。彼はインディーズ・アンセム「She Said」で知られる Britpop バンド Longpigs の歌手として、90 年代に名を馳せた。Lana Del Rey、Ellie Goulding、Florence + the Machine、Jake Bugg、Rod Stewart のヒット曲を筆頭に、バンド解散後、ソングライターとして成功した。それは生活の為だったと彼は説明するが、Napster 後のストリーミングサービスやオンラインビデオの世界ではソングライターは報われない。

"Rock stars don't want to hear problems. Our job is not to say, 'That's impossible' - our job is to say, 'Yes, of course.'"

—
Rick Lipton, designer

ロックスターは問題が起きたなんてことを耳に入れたがりません。「不可能です」ではなく、「はい、もちろん大丈夫です」と伝えるのが私たちの仕事です。」
デザイナー Rick Lipton

「私がもし 80 年代と 90 年代の同じチャートポジションに達した曲を書いたら、今あなたと話していないでしょうね」と彼は苦笑いする。「私は LA あたりのプールサイドにいます。ただ、Spotify から 1 ストリームあたりに支払われる金額が平均 0.006 ドルから 0.008 ドルであるうちは、そして YouTube のロイヤリティが秘密裏にされているうちは、それは想像するのも難しいですね。最近 BBC ラジオ 1 の C リストに私の曲 1 曲が載ったのですが、これは 1 週間に 6 回再生されるということです。同じ週に、私が書いた Jake Bugg のトラックは、YouTube で 1,200 万回の再生回数を記録しています。ラジオ 1 で 6 回再生されたことで 75 ポンド、YouTube で 1,200 万回再生されたことで 65 ポンド稼ぎました。お金を稼ぐ唯一の方法は 2000 席以上の会場を満員にすることです。どんなツアー、どんなギグ、どんな規模のバンドでも基本的なランニングコストは同じです。トランポ、スタッフ、PA、など… 2000 席以上売らなければ、稼ぐことは出来ないのです。」

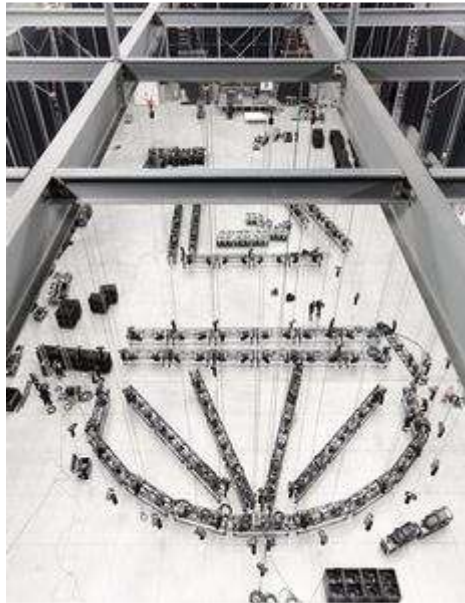
1999 年、アメリカの録音産業協会によると、世界最大の音楽市場である米国で収録された音楽は、インフレ調整後で 206 億ドルを獲得したという。2015 年、監査法人 PwC は、販売、ストリーミングにかかわらず、収録された音源における世界の音楽産業収入を合計約 150 億ドルと推定している。同期間中、ライブツアー業界は、シリコンバレーの外ではほとんど見られない展開を目の当たりにした。米国のコンサートチケットセールスは、1999 年から 2009 年の間に 3 倍になっているのである。2016 年には、ライブミュージックはチケットセールスで年間 250 億ドル以上、加えてスポンサー収入 50 億ドルを獲得した。これはアイスランドの GDP よりも大きく、収録された音楽の世界的収益の約 2 倍である。

アーティストにとってもその違いは明らかである。U2 のアルバムセールスは 1991 年の Achtung Baby の 800 万枚から 2009 年の No Line on the Horizon の 340 万枚売上まで、Joshua Tree 以来減少している。しかし Achtung Baby、Zooropa をひっさげて 1992~1993 年に行った Zoo TV ツアーでは、興行収入は 1 億 5100 万ドル、2009~2011 年の 360° ツアーでは 7 億 3,600 万ドルの過去最高を記録した。2017 年の Joshua Tree ツアーは、360° ツアーの半分以下の日程であったが、最初の 1 ヶ月で 6200 万ドルを獲得した。

「ライブ音楽は映画、DVD ボックス、レストラン、ナイトクラブ、テーマパークと同じエンターテインメント利益で競合している」、と Winky は説明する。「Show は競争するために圧倒的と言われるものにならなければならなかったが、ファンとアーティストの関係は信じられないくらい親密になっている。どうしたら何万人もの人々を驚かせるだろうか？ どうしたら会場の後ろに座っていても、アーティストを身近に感じられるだろうか？ というのが私たちの挑戦です。そうでなければ客はもう二度と来てはくれないでしょう。」

人口約 1 万人の街、Lititz は、小麦畑や酪農牧場の真ん中にたたずむ市場の小さな町である。町のほとんどは 20 世紀以前に建てられ、木製の植民地時代の家屋、リージェンシー時代の古典的な石造りの建物、ゴシック・ビクトリア様式の赤レンガのお店、改装された倉庫などが点在する。

周辺地域であるランカスター郡は、近代的な技術と利便性を拒否するアナバプテスト教派であるアーミッシュが米国で最も集中している。フィラデルフィアから Lititz に向かうと、小さな箱型の 4 輪馬車が道を走るのが見える。黒い馬車はアーミッシュに属し、灰色の馬車はより技術に精通したメノナイトに属している。



2018年のワールドツアーで使うステージセットアップの作業が進行中

両コミュニティは Tait の本社、この街の端っこにある Rock Lititz と呼ばれる工業団地から広がる、技術を中心としたエコシステムの核となる部分だ。Rock Lititz は 2014 年に Tait と Clair Brothers によって建設された広大なキャンパスで、参加したい企業をもてなすために作られた。これは、トロント大学の教授、Richard Florida も地域に根ざしたエコシステムと呼ぶものである。Tait と Clair 以外にも、照明とデザインの会社 Atomic、ビデオの専門家 Control Freak、バリア会社 Mojo、Stageco (U2 の 360°ツアーで使用された Claw (爪) のような大きな鉄骨構造を作る)、エンジニアリング会社 Pyrotek、ヤマハ楽器、楽器レンタル会社である Tour Supply が入っている。

これは最も純粋な意味でのクラスターイノベーション(集団での技術革新)である。アーティストや企業は、低コストで実験を行い、アイデアを試し、素早くプラン変更できる。間違いを正すためのコストが削減され、人々はより大きなリスクを冒すことができる。近くに会社が隣接することで結束力は高まる。Clair Global の Troy Clair 社長兼 CEO は次のように語る。「このビジネス成功の鍵は、他のビジネスと同様、人との関係です。人と知り合い、一緒に仕事をする事で、信頼を得ることが出来ます。」

技術革新に基づくこの会社は、アーミッシュの街の中心に位置するばかりでなく、基本に戻る精神は経済と共に完全に共生している。農業のサプライチェーンと小さな金属工芸品のネットワークにより、Tait のデザイナーや建築家が構築できるものがある。例えば、牛の鉄柵を作るメノー派の会社は、Tait のロックコンサート用の金属製品もカットするという。

「私の隣人はすべてアーミッシュです。」と 40 代後半、カーリーヘアで仕事熱心な Tait のチーフクリエイティブ・オフィサー、Adam Davis は語る。「農家で何かを壊せば、それを修理する必要があります。コンピュータ駆動のコンバイン収穫機ではなく、昔ながらの道具を未だに使用している場合は、特に。創造的な問題解決について言えば、アーミッシュは達人です。ただただその解決に当たるのです。こういった農家は全て革新的な素晴らしい文化を持った企業です。他を探してもいないでしょう。ショーデザイナーが何かを作る必要があれば、注文の型と寸法のプロトタイプを弊社のスチールショップで 15 分以内に作成します。その後、アーミッシュの鍛冶屋に行けば一晩くらいで 1 万個は作製してくれます。」

Rock Lititz は Nasa のケープ・カナベラルのようだ。建物が大規模な倉庫を取り囲む、大型ロケットの集合室に似ている。中を歩くと、TARDIS に入るのこんな感じなのでは、と思える。空間は内部に入ると余計大きく感じられる。スタジアムのステージ 1 つ、またはアリーナステージ 2 つを作り、それを作り替えるのにも十分な大きさである。



Tait Towers のエンジニアが設計アイデアからプロトタイプを作るのにかかる時間は 20 分

Tait のメインビルディングは、そんな集合室に似た建物とリハーサルルームから車ですぐだ。232,000 平方メートルにも広がり、デザインスペース、プロジェクト管理、メタルショップ、電気制御ショップ、電気モーター部署、LED ビデオスクリーンチーム、舞台部署、印刷所、入り組んだトラックヤードを備えている。まるで古いビクトリア朝の家族会社のような。誰もが(荷造りから積み込み・降ろしをする人まで)社員であり、唯一のアウトソーシングはアーミッシュの職人だけだという。「私たちがやっていることはすべてプロトタイプです」と Davis が、リハーサルルームと本社の間の大広なスペースを運転しながら説明する。「U2、Katy Perry、Taylor Swift... 彼らは彼らのブランドの CEO です。誰も Justin Bieber や Rolling Stones が昨年やったことと同じことを望んでいません。全く新しいものを求めています。ですから、私たちは壮大なせめぎ合いをしているようなものです。外から見ている分には楽しいかもしれませんが、来る日も来る日も自身を一から見直し、次のレベルに達するために、失敗できないという意識をもちつつ新しいものを作り上げるのです。特に空中に大きなものを飛ばすときなど、人が怪我をする可能性があるので間違えることは許されません。」

Taylor Swift、Usher、Mumford & Sons、U2、Lady Gaga は、Rock Lititz のオープン以来そこで show を制作し、リハーサルしてきた。「ありがたいのは、リハーサル後にアーティストが街に出て、アーミッシュは彼らが誰であるのか分からないという事です。」と Davis は笑う。「私たちは、初めて何かをテストする時がクライアントの前、と言う状況にうんざりしていたので、技術用スペースが欲しかったのですが、それに見合う十分なスペースがないことが問題でした。だから、自分たちのため、技術者用に建てたのです。しかし、次第にアーティストがバンド、振付、照明、特攻、音響、オートメーション、ステージング、コンテンツなどを引き連れてやってくるようになり… 現在、制作のプロセスがここで繰り広げられているのです。」

Lititz では世界的な 10 億ドル規模の専門業者、職人技術の会社が、珍しい事例研究、融合した創造性、建造、工芸、コミュニティ、そしてデータ処理を提供している。あなたがもし、例えば Lady Gaga であれば、ドアを開けて入り、この場所 1 つで、コンセプトに従って設計から構築、リハーサル、バラシまで終わらせることができる。それは 2017 年のツアー、Joanne に向けて彼女がしたことと全く同じである。



Tait の製造担当、Matusalen "Matt" Morales

Lady Gaga の show はその壮観さで知られる。2012 年、Born This Way ツアー用に彼女が Tait に作らせたのは 5 階建ての城だった。現在、show の最終的なデザインは、リフト 3 つとパフォーマー ウェーブリフトが 5 つある LED パネルに囲まれた 26 メートル幅のステージを特徴としている。ウェーブリフトは、さまざまな方法で設定できるため、テトリスブロックと揶揄される可動プラットフォームである。ウェーブリフトは、階段やジグザグのような形に変形しながらいつも動いている。これは壮大な show のためにと作られたが、Gaga が望む怪しげなバーのような雰囲気が抜けていた。それに応じて、アリーナの逆側に切り離れたステージ、そのようなバースタイルの B ステージを作った。

シルク・ドゥ・ソレイユでリガーとしての仕事を始めた Tait のプロジェクトマネージャー兼インテグレーター Jim Shumway は、Joanne ツアーが始まる 1 ヶ月前に進行内容を紹介してくれた。ステージデザイナーの方々は、アニメーションソフトを 3 画面モニターに搭載し、照明とサウンドがすでに組み込まれたステージの一部分を変更したりしていた。1 人は空中を飛んでいるような奇妙な楕円形の円盤を操作していた。

「これは橋です」と Shumway は説明する。「B ステージにはこのハート型のアクリル製のピアノがあり、キーを押すたびに会場にビームを放つレーザーが 44 個付いています。B ステージには橋を渡って行かなければなりません。そうすると、この橋にはダンサーが 5 人いる必要があるのに、残りの show の間は他の場所にいなければなりません。このように実現しがたいことが出て来るのですが、これは私たちがいつも経験することです。しばらくの間、これは達成不可能だと思っていました。」

解決策として、膨らませることが出来る照明ポッドを特注で 3 つ作ったのだという。ビルボード型のビデオスクリーンを搭載させ、オーディエンスの頭上 18 メートルの高さに設置した。それぞれ飛ばすことができ、橋に変わる。橋はメインステージの周りに点在する 3 つのサテライトステージの 1 つに到達させることができ、組み合わせさせてキャットウォークが形成されると、B ステージまで伸びていく。Lady Gaga やダンサーが橋を渡る間、橋はオーディエンスの頭上に伸び、照明、リフト、音楽と交わる。それは不可能そうであったが、Tait 独自のソフト Navigator は、「数学を芸術に変えるのです。」と Shumway は語った。



Lady Gaga の Joanne ステージ。2016 年に小さい会場を回った dive-bar ツアーと 2017 年の Super Bowl でのステージ要素を融合させた。

Navigator は産業用ロボットから照明・音響卓、Gaga を空中へ吊り上げるウィンチや滑車まであらゆるインターフェイス、システム、デバイスをコントロールするためにデザインされたフレキシブルな自動化ソフトである。工場ロボットを操作するのに使用されるような自動化ソフトは、単純さと繰り返しによって信頼性が強くなる。Navigator には、無限の柔軟性と完全な信頼性がなければならないと Shuman は説明する。そして、Navigator は技術トレーニングがほとんどない、もしくは全くない人によってコントロールされることが頻繁にあるのだという。

「多くの場合、Navigator で何をすべきか決定を下すのは技術者や開発者ではなく、取締役やアーティストに付いている人です。」と、Tait の技術部長、Jim Love は説明する。「彼らは、創造的な人の願

いをその場で解釈しているのです、基本的なプログラミングはできるだけ直感的で簡単にする必要がありますが、システムは愚かなことはやめさせる必要があります。」

2013年、Navigatorは工場で自動車を作る為の産業用ロボットアームを2本同期させ、Deadmau5のラスベガス公演で躍らせた。2015年、Taylor Swiftのステージ前でNavigatorがキャットウォークを持ち上げ、本人とダンサーをオーディエンスの頭上に飛ばした。2016年、Red Hot Chili PeppersのGetawayツアーでは、巨大な動く照明装置を使って、波と振動パターンをNavigatorで創り出した。

Getawayツアーで照明用に波のパターンを作成する際、デザイナーはアニメ化した波のビデオファイルをNavigatorにエクスポートした。これがTaitのNano Winchesを操作し、あらゆる照明の色と位置を変化させるキューとして使われた。オペレーターは全員、開始時に「go」を押すだけで、あとはNavigatorに任せていた。

Navigatorのルーツは、80年代のシンセサイザー、そしてブロードウェイやラスベガスのshowにおける技術的要求である。1983年、シンセサイザーのメーカーは、ドラムマシンがベースラインをキックスタートさせたり、キーボード1台でオーケストラをコントロールしたり、ということを実現するため簡略化した共通言語 - MIDIを承認した。劇場ではパイロを爆発させる、というようなタスクに対するトリガー用のキューを送る仕組みが見直された。

Navigatorでも同様の仕組みが使用されている。Intelのx86デスクトップCPUとリアルタイムの駆動システムで構築されたハードウェアを使用して、システムのビルディングブロックが15年前に設置された。これは、自動運転車両設計で使用されるフライバイワイヤシステムと同様の設定である。Navigatorは、元のコーディングが何であっても、工場のロボットアームなどのあらゆるデバイスと通信できる。照明機材と同期して、インターフェイスを単純化することができるので誰がローディでもオペレートすることが可能となる。

「建築の基本原則は変わっていませんが、モジュラープラットフォームなので、その上であらゆる種類のもので構築することができます。」とLoveは説明する。「その中には機械学習と、少しの自動運転車コントロール、気象測定モジュールがあります。私たちが過去15年間行ってきたことは、新しいモジュールを開発して、よりパワーを送り続けることでした。これには私たちがこれまで要求したことが全て記憶されています。」と述べた。

例えば、最近建設された中国のテーマパークでは、Navigatorで噴水をコントロールし、柱から柱まで水滴を飛ばし跳ね返ってくる錯覚を与えている。ここでは噴水の場所を特定するモジュールが入っている。天候がどうであっても、噴水がターゲットになるように取り付けてあるようだ。Lady GagaでNavigatorをセッティングするのは簡単なことであり、ほんの一握りのモジュールしか必要としなかったという。36,000kgのメインウェーブリフト2つと小さなリフト3つを作り上げ、showの振付次第ではそれらを繋げ長く使った。

Navigatorの成功にとって重要なのは、そのコーダーが基づいている場所、コロラド州ボルダーにある、とLoveは主張する。「コードを書くときに最後に必要となるのは、プロジェクトデザイナーがあなたの肩越しに監視しながら、あなたに彼らの問題を解決させることです。というのは、あなたは長期的な解決策を講じるのではなく、短期的な問題に常に対応していることを意味します。」と彼は語った。



Navigator ソフトを使えばコンサート中、ステージセットを安全に動かすことができる。

大規模なツアーステージの仕込みからバラシまでをコマ送り撮影の映像で見ると、一つ一つが一定の動きの中にあり、バラシは一瞬であることが分かる。「show で見るセットの姿は、1 つの集合体になったほんの一瞬なのです。」7 月の汗ばむ陽気の日曜日、Stufish の CEO Ray Winkler は、Twickenham スタジアムでオーディエンスが列を成して入っていくのを見ながらこのように説明する。「ステージセットは、大半の時間、BOX に入ってトラックや飛行機、船の中で運ばれていたり、南米やヨーロッパのスタッフによってハンドリングされたりしているので、ライブ中こそがセットにとっての休息时间と言えます。それをオーディエンスが目当てにしているのです。」

さらに分析は続く。「インスタグラム・モーメントとは何か？」アーティストのマネージャーが、Stufish と Tait に対して持つ最大の疑問である。ツアーがかつてアルバムを売るツールだったように、インスタグラムは今や、ツアー、そして究極はアーティストのブランドを売るツールである。Nielsen が行った 2016 年の調査によると、ライブ中にソーシャルメディアを使用したオーディエンスのうちインスタグラムの使用者は 83%であった。結局、送信や共有、コピー、いいね！などされるための静止画数枚が全てなのである。



左から右: Eric Schmehl、Matthew Lotito、Adam Davis、Morgan Farnsworth がステージデザインの進行中

Joshua Tree のツアーでは、U2 のパフォーマンスは分割されていた。ライブの冒頭、何千人もの中年層の男性で埋め尽くしたスタジアムを太陽が照らしつけると、バンドは低いキャットウォークの B ステージで「Sunday Bloody Sunday」のような初期のヒットを駆け足で演奏した。日没では、4 人のメンバーがメインステージに戻って The Joshua Tree の曲を演奏し始め、センターステージでしばらく止まってオーディエンスに手を振った。彼らの背後では、スクリーンが赤く輝き、彼らは漆黒の木の形の下にシルエットで映し出された。

「私たちはここでバンドにポーズをとってもらいました」と Lipson。「Tait がプラットフォームを構築し、完璧なポジションを獲得するまで私たちが 1 日ほど試したあと、そのポジションで 30 秒間静止するようメンバーに伝えました。」それが上手くいった。オーディエンスは、Justin Bieber ライブの十代の少女たちのように叫び、携帯電話を持ち上げて何百万回もシェアされるであろう写真を何枚も撮り、ソー

シャルメディア上でツアーの様子を数十億人の人々に発信した。この一時停止が最高で、もはやアルバムカバーを必要としない、ライブアルバムのカバーショットとなった。

ゆっくりと、こういったことが劇場や他の建物のデザインにも影響を与えている。Tait は、空港の設備として Red Hot Chili Peppers の Getaway ツアーよりキネティックアーキテクチャ(建物の一部を変化させられるように設計された建築物)を採用し、また最新モジュラーコンセプトにおけるロンドンの最新劇場、Bridge Theatre の建設ではライブコンサートの知識を注ぎ込んだ。(旧国立劇場の芸術監督 Nick Hytner とエグゼクティブディレクター Nick Starr の London Theatre Company の依頼により)

「私たちが扱っているこの技術は、調整可能で運送可能であることが必要です。」Winkler は語る。「大衆文化とポップのイメージは私たちの世代の通貨です。ビジネス対象がロックのステージか、鉄道の駅かは関係ありません。人々は同じ形式で写真を撮ります。空港のターミナルであっても、ビデオスクリーンであっても。写真は彼らの売り物です。もしインスタ映えしないのなら、誰も興味を持ちません。」

もし Winkler が正しくて、完璧な写真の傾向としてこれからもオフラインアート、建築物、食べ物、友情が中心となり続けるのであれば、私たちは、あらゆる種類のデザインにおいて Tait のインスタグラム・モーメントの世界で生きることになるのだろう。その世界では、Bono が木を描けば、世界中にいる何百万人もの人々がそれを共有することができるのだ。

Stephen Armstrong はフリーライターです。彼は 12.17 号で *WIRED* セキュリティーイベントについての記事を書いています。

この記事は、WIRED の 2018 年 2 月号に最初に掲載されました。

WIRED(ワイアード)は、アメリカ合衆国で 1993 年に創刊された雑誌である。

ジャンルはビジネス、インターネット、ジャーナリズム、カルチャーなど。本国以外では、イギリス、イタリア、ドイツ、日本の 4 カ国でそれぞれ発行・発売されている(日本は 2017 年 12 月で刊行休止)。また、台湾では中国語版ウェブサイトが開設されている。

雑誌に限らず、ウェブサイトや電子書籍など、様々な形でグローバルにコンテンツを展開している。